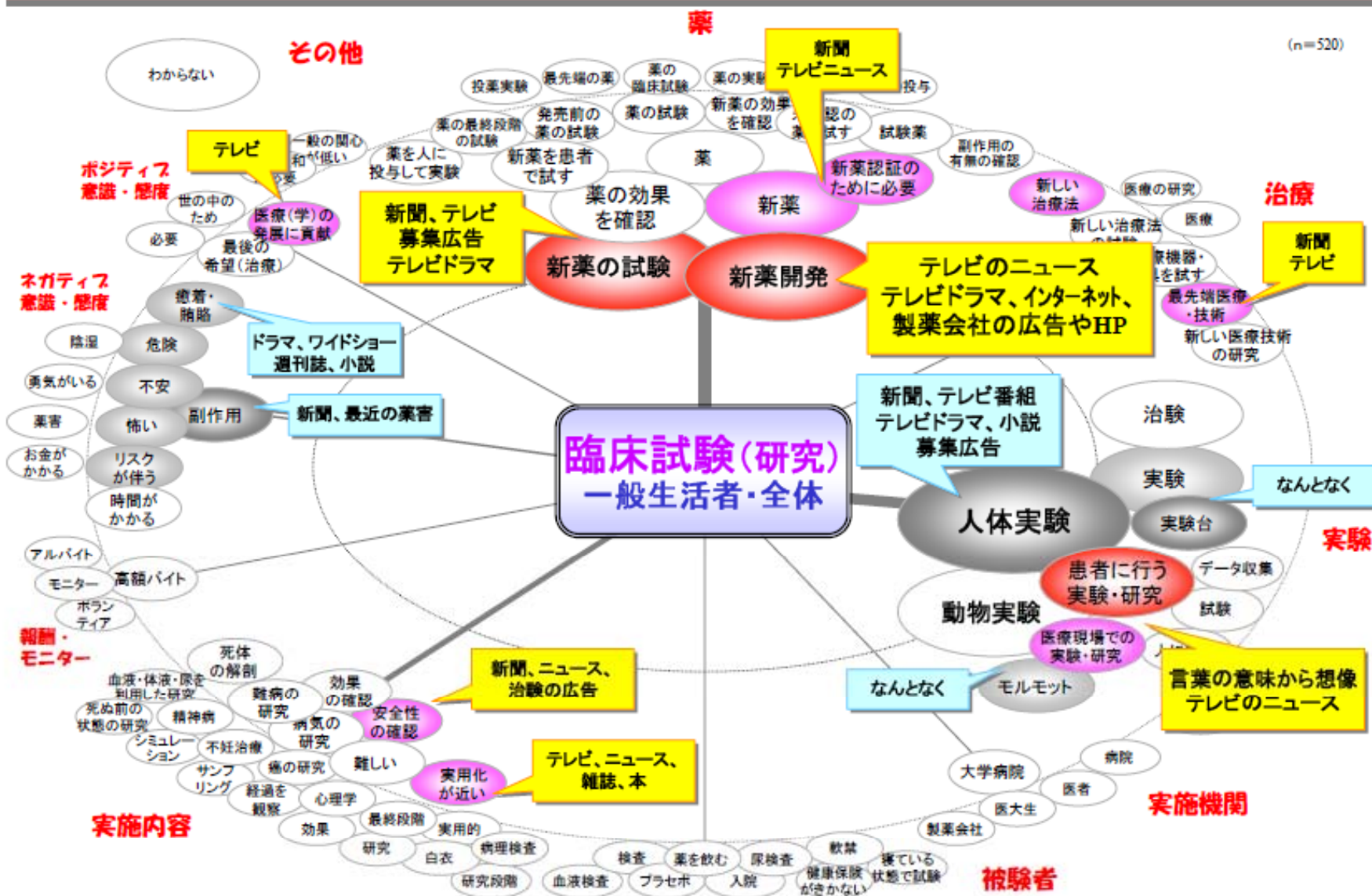


# 「臨床試験・臨床研究」からの連想 <一般生活者 全体> 主要ワードの源泉分析

(n=520)



## 一般生活者がもつ「臨床試験・臨床研究」の理解・イメージ（まとめ）

- 「臨床試験・臨床研究」の認知率は92%と高い。ただ、「意味・内容を理解し説明できる」人は7%と低い。年代があがると理解率は高まるが、「なんとなくわかる」が高率になるだけで、正しい理解は進んでいない。
- 「臨床試験・臨床研究」から連想する言葉は、一般生活者で一人当たり平均1.6ワードと少ない。
- 最も多く連想された言葉は「人体実験」と「新薬開発」、次いで「動物実験」「新薬の試験」である。全体としては「治療」の連想は少なく、「薬」（とくに「新薬」）の連想、「実験」の連想が多い。また、「治験」とは違って「実施内容」に関連する言葉がたくさん出現する。
- 「新薬開発」や「新薬の試験」はポジティブな意識での連想であり、これらの連想の源泉はテレビのニュース、新聞、テレビドラマ、インターネット、製薬会社の広告やHPと答える人が多い。
- ネガティブ意識が高い連想ワードは、「人体実験」や「実験台」「副作用」である。「人体実験」はネガティブだが、「患者に行う実験・研究」はポジティブイメージである。漠然としたイメージではネガティブになるが、少し理解が深まるとポジティブなイメージになる。「癒着・賄賂」というネガティブワードは、「ドラマ、ワイドショー、週刊誌」などからの情報・イメージが影響している。
- 年代別の連想の違いでは、20代は「高額バイト」や「怖い」という連想が多く、「精神病」「人間の心理」といった言葉も出てくる。30代は「人体実験」の連想が多く、ネガティブワードが最も多い。40代は「治療」の連想や「効果の確認」「患者に行う実験・研究」などの言葉が多い。また「癒着・賄賂」の言葉が出てくるのはこの年代である。逆に50代になると、「医療(学)の発展に貢献」などの言葉が多く出て、ネガティブな言葉が少なくなる。60代以上では、「新薬開発」や「動物実験」の言葉が多くなり、「最後の希望」といった言葉が特徴的。全体的にポジティブなイメージの言葉が他の年代よりも多くなる。